

529ヘクタールの水源の森からのホットな情報発信

第96号 2011年7月

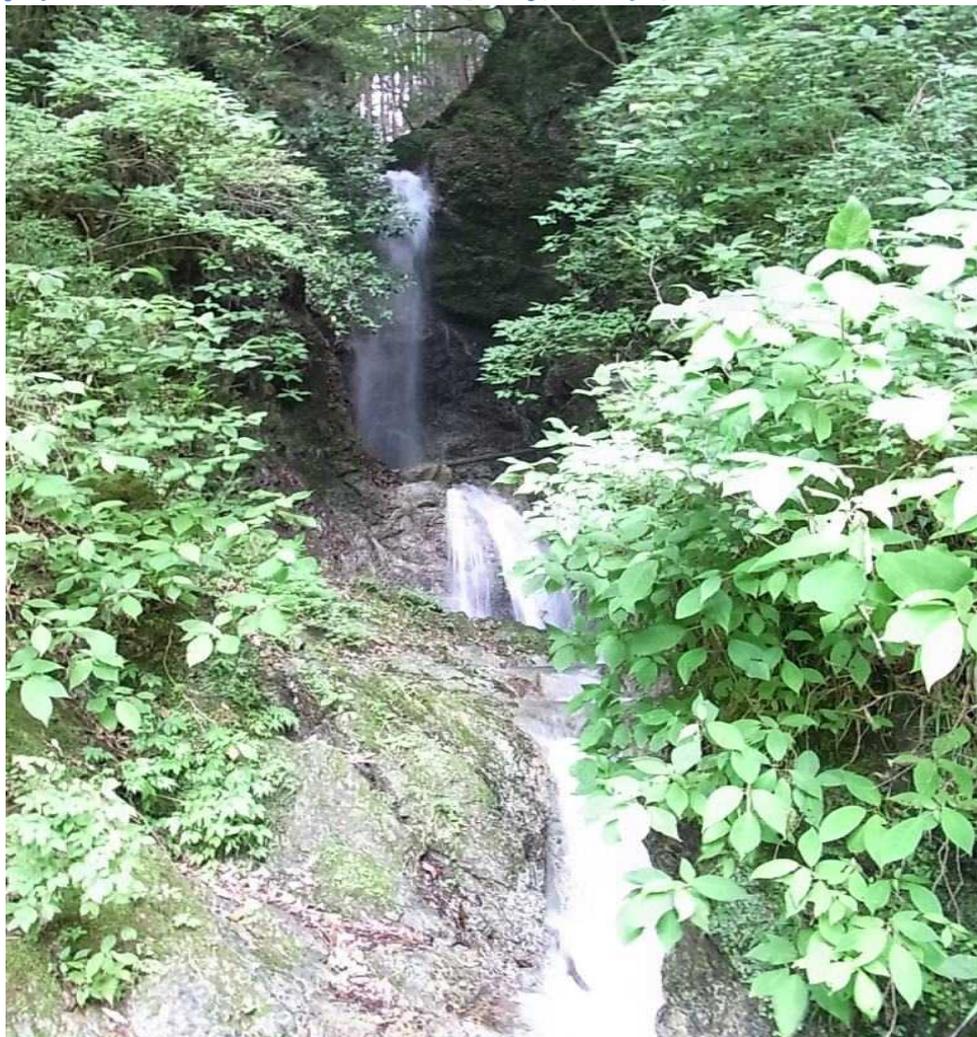
やどりき水源林ニュース

発行(財) かながわトラストみどり財団 編集 NPO 法人かながわ森林インストラクターの会
 220-0073 横浜市西区岡野2-12-20 神奈川県横浜西合同庁舎内
 045-412-2255 <http://www.ktm.or.jp> E-mail:midori@ktm.or.jp

定例観察会のお知らせ(費用等負担はありません)

毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO 法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。なお、冬季(12月・1月・2月)は安全確保のため休止します。

涼を求めて水源林へ



今年は梅雨が開ける前から蒸し暑い日が続き、さらにこれから夏に向けて電力消費を抑制するため、冷房を入れるのもままならない状態が続くと思われます。

やどりき水源林には、いくつかの滝や川の流れが合流する場所(沢の出合)があります。

水源林のそのような場所では、自然の爽やかな涼しさを感じていただけます。

花の季節も一段落し、林内のあちらこちらで実の姿を楽しむことができます。

寄沢に注ぐ滝郷の滝
林道コースにある小さな滝



涼をよぶせせらぎの音を聴こう



加工部拡大



枝打ちされた木の枝の片方を左画像の様に加工して、加工した側を耳に、別の側を水中の流れの岩に当てると、まるで水の流る音をマイクで集めた様に鮮明に聴くことができます。二本使えば、ステレオで聴くことも可能です。(枝は直径2~3cm、長さ1.5m位)

バランスを崩したりしない様に、足場をしっかりと確かめてから実施して下さい。転倒防止や耳の安全のためです。

水源林で観察できる実



サルトリイバラ(実、ユリ科)



サルナシ(実、マタタビ科)



マタタビ(実、マタタビ科)



イヌシデ(実、カバノキ科)

寄大橋までの植物

やどりき水源林の玄関口といえば『寄バス停』です。寄バス停からやどりき大橋の間で、どんな種類の植物があるかを探してみました。水源林の中では、まだ咲いていない植物もすでに咲いているのを見つけることができます。



バス停付近から水源林方向



キキョウソウ(花、キキョウ科)外来種



イタドリ(葉、タデ科)



ヤマホタルブクロ(花、キキョウ科)



ウツボグサ(花、シソ科)



クサノオウ(花、ケシ科)



コマツナギ(花、マメ科)



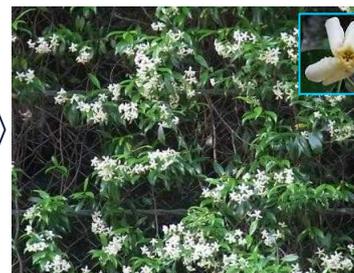
オニグルミ(実、クルミ科)



ミツバウツギ(実、ミツバウツギ科)



マタタビ(葉、マタタビ科)



テイカカズラ(花、キョウチクトウ科)



クマシデ(実、カバノキ科)

その他の植物：アカバナユウゲショウ、ママコノシリヌグイ、樹木ではネムノキ、ムクノキ、フサザクラ、ミズキ、アラカシなど
葉、花、実の表記は6月末での植物の状態です。梅雨が明け、気温が上がると植物はさらに変化をしていきます。

7月のトピックス

5-6月で咲いた花は実をつける時期になってきています。今回紹介した実の中にも、暑い夏場を乗り越え秋までに大きさ、色合いが次第に変化していきます。

8月の水源林

その時々に見頃の水源林内の植物、動物、昆虫や水生生物などの情報は、水源林入口の管理棟前掲示板に掲載されています。随時更新中です。

夏休みになると、河原で水生生物を探す森の案内なども行われます。ぜひご参加下さい。

(7月30・31日、8月7日、13・14日、21日)